

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 ($\mu\text{g}/10\text{a}$)	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	馬拉ソンを 含む農薬の 総使用回数			
メロン	ハダニ類、アブラムシ類	2000~3000	100~300	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内			
	ウリハムシ	1000								
かぼちゃ	ハダニ類、アブラムシ類	2000~3000			5回 以内		5回以内			
	ウリハムシ	1000								
うり類 (漬物用)	ハダニ類、アブラムシ類	2000~3000			3回 以内		3回以内			
	ウリハムシ	1000								
にがうり	アブラムシ類									
トマト	ハダニ類、アブラムシ類	2000~3000						5回 以内		5回以内
なす										
ピーマン										
キャベツ										
カリフラワー ブロッコリー	アブラムシ類、アザミウマ類	2000~3000		1000	収穫3日前 まで		5回 以内		5回以内	
	カブラハバチ、アオムシ									
はくさい	アブラムシ類、アザミウマ類	2000~3000		1000	収穫前日 まで					
	カブラハバチ、アオムシ									
だいこん	アブラムシ類	2000~3000		1000	収穫14日 前まで		6回 以内		6回以内	
	ハモグリバエ、アオムシ カブラハバチ									
かぶ	アブラムシ類	2000~3000		1000	収穫3日前 まで		4回 以内		4回以内	
	ハモグリバエ、アオムシ カブラハバチ									
いちご	ハダニ類、アブラムシ類	2000~3000		2000	収穫3日前 まで		5回 以内		5回以内	
	ミカンキイロアザミウマ									
ねぎ	アブラムシ類、アザミウマ類	2000~3000		1000	収穫7日前 まで		6回 以内		6回以内	
	ハモグリバエ									
たまねぎ	アブラムシ類、アザミウマ類	2000~3000		1000	収穫14日 前まで		4回 以内		4回以内	
	ハモグリバエ類									
にんじん	アブラムシ類、キアゲハ ヤサイゾウムシ				収穫7日前 まで		5回 以内		5回以内	
ごぼう	アブラムシ類	2000~3000			収穫14日 前まで		4回 以内		4回以内	
ほうれんそう					収穫3日前 まで		5回 以内		5回以内	
レタス					収穫14日 前まで		4回 以内		4回以内	
あしたば					収穫7日前 まで		3回 以内		3回以内	
食用ぎく	アブラムシ類	2000			収穫3日前 まで		2回 以内		2回以内	
よもぎ					収穫7日前 まで		1回		1回	
花き類・ 観葉植物	ハダニ類、アブラムシ類	2000~3000		発生初期	6回 以内		6回以内			
きく	ヨトウムシ類									
サルビア	オンブバッタ									
マリーゴールド	ハモグリバエ類									
たばこ	アブラムシ類、ヤサイゾウムシ	1000	25~180	収穫10日 前まで	2回 以内		2回以内			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- ミカンキイロアザミウマの防除に使用する場合、多発生時には、効果が劣ることがあるので、初発生をみたら直ちに散布すること。
- 本剤を大型散布機で使用する場合は、各散布機種種の散布基準に従って実施すること。

- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 原液は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 危険物第4類、第2石油類に属するので火気には十分注意すること。
- ❖ 保管：火気をさけ、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管すること。